

研究協力をお願い

昭和大学関連病院（昭和大学病院、昭和大学病院付属東病院、昭和大学藤が丘病院）では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

群発頭痛悪化、慢性化および予防薬の反応性に関与する因子の探索研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2007年4月～2016年12月に当院の頭痛外来を受診し、群発頭痛と診断された方

2. 研究目的・方法

群発頭痛の有病率は10万人あたり56～401人程度で、男性における有病率は女性の3～7倍と報告されている。また群発期には発作は定期的に起こるほか、アルコールや喫煙が誘発因子と考えられている。しかしながらどのような患者が悪化もしくは慢性化するのか詳細に検討した報告は少ない。そこで本研究では、昭和大学関連病院（昭和大学病院、昭和大学病院付属東病院、昭和大学藤が丘病院）の外来を受診し、頭痛専門医が群発頭痛（反復性群発頭痛と慢性群発頭痛）と診断した患者を対象に、診療録調査を行い、頭痛悪化の要因を探索する。

群発頭痛の予防薬としてはカルシウム拮抗薬（ベラパミル）、抗てんかん薬（バルプロ酸、トピラマートなど）などが使用されているが、患者全員に効くわけではなく、有効率は6-7割にとどまっている。したがって、予防薬が有効な患者と無効な患者を適切に予測することができれば、患者に対してより良い頭痛医療を提供でき、患者のQOLの向上につなげることが可能となる。そこで本研究では、昭和大学関連病院（昭和大学病院、昭和大学病院付属東病院、昭和大学藤が丘病院）の外来を受診し、頭痛専門医が群発頭痛と診断した患者で予防薬が処方された患者の中から、その効果判定が可能であった患者を抽出し、各患者の診療録調査を実施する。

研究期間

2017年3月16日～2019年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ番号、生年月日、性別、診断名、症状、既往歴、アレルギー歴、副作用歴、家族歴（家族の頭痛の状況）、治療薬、治療効果、副作用の有無、生化学検査など。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学薬学部生体制御機能薬学講座生理・病態学部門

研究責任者：石井 正和

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8041